

第1部  
めざすまちぎの姿

# IV 各地域の特性

I

時代の潮流とまちぎの課題

II

まちぎの強み

III

人口の将来展望

IV

各地域の特性

V

めざすまちぎの将来像

## 1 基本的な考え方(趣旨・地域区分の考え方)

人口構造が変化していく中、地域を活性化し、地域経済を発展させるとともに、住民に対する行政サービスを持続可能なものとし、住民の利便性の向上を図るためには、市町の枠組みを越えた広域的な視点で行政課題を把握した上で、広域的な課題の解決に向けて、市町間の自主的・主体的な広域連携やこれらの取組等に対する県の支援・調整を一層図っていくことが必要となっています。

これまで、地方自治法に基づく組合や事務の委託などによる地方公共団体間の協力、中心市と近隣市町村による協定により圏域全体の活性化を図る定住自立圏の取組などのほか、本県では、旧広域行政圏の枠組みにより県内を10地域に分けてブロック別市町村長会議を平成13(2001)年度から開催し、市町が抱える課題等について県と市町で議論を行ってきており、平成18(2006)年度以降は市町村合併の進展も踏まえ5ブロックで実施しています。

このプランでは、県内をブロック別市町村長会議の単位である5地域に分け、各地域の特性や各市町の認識を踏まえ、人口減少問題に加えて当該地域が抱える優先的な広域的課題を抽出することとしました。各地区の「現状と課題」には、令和7(2025)年度のブロック別市町村長会議において議題とした課題を記載しています。



地 区	市 町 名
宇都宮(2市2町)	宇都宮市、下野市、上三川町、壬生町
栃木・小山・両毛(4市1町)	足利市、栃木市、佐野市、小山市、野木町
鹿沼・日光・塩谷(4市2町)	鹿沼市、日光市、矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町
芳賀(1市4町)	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町
那須・南那須(3市2町)	大田原市、那須塩原市、那須烏山市、那須町、那珂川町



## 2 各地域の特性

### (1) 宇都宮地区 宇都宮市、下野市、上三川町、壬生町

#### ■地区の特性

##### 【地理・自然】

- 宇都宮地区は、県のほぼ中央部に位置し、2市2町で構成されています。
- 関東平野のほぼ北端に位置し、平坦な土地が広がっています。
- 東側に鬼怒川、中央に田川、西側に姿川がそれぞれ南流しています。
- 国道4号及び東北自動車道が南北に通り、北関東自動車道が東西を横断しています。
- 南北に東北新幹線及びJR東北本線、南西に東武宇都宮線が通っており、都心へのアクセスが良好であるほか、令和5(2023)年に開業した宇都宮芳賀ライトレール線(ライトライン)が宇都宮駅東口～芳賀・高根沢工業団地を走るなど、主要な交通が交差する要衝です。

##### 【観光・文化】

- 宇都宮市は、餃子のまちとして全国的に知られているほか、宇都宮ジャパンカップサイクルロードレースなど国際的スポーツイベントが開催されており、それらを目的とした多くの観光客が訪れています。
- 飛鳥・奈良時代の寺院跡(下野市)のほか、城跡(宇都宮市・上三川町・壬生町)などの歴史遺産が点在しています。
- 日本遺産に認定された大谷石文化の構成文化財となっている地下空間を活かした大谷資料館(宇都宮市)、童話の世界を再現したグリムの森(下野市)、折り紙文化を伝える吉澤章折り紙記念室(上三川町)、玩具をテーマにしたおもちゃ博物館(壬生町)など、特徴的な施設があります。

##### 【産業】

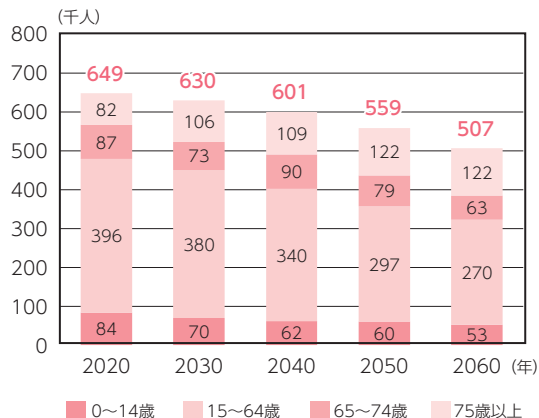
- 産業構造は、第3次産業の占める割合が高くなっています。第3次産業のうち、事業所数及び従業者数とも「卸売業、小売業」が最も多くなっています。
- 製造業では、「飲料・たばこ・飼料製造業」をはじめ製造品出荷額等は、県全体の約33%を占めています。また、第2次産業においては、内陸型最大規模の工業団地を有するなど、多くの産業団地が集積しています。特に、自動車・航空宇宙・ロボット・情報通信など、次世代モビリティ産業の集積が進み、地域経済をけん引しています。
- 農業産出額では、野菜や米のほか、肉用牛などの産出額が多く、県全体の約14%を占めています。
- 観光客入込数が最も多い地域であり、県全体の約25%を占めています。特に宇都宮市が約1,570万人と最も多くなっています。

【基本データ】

項目	数 値	単 位	県全体に占める割合(%)
人 口	643	千人	33.8
外国人住民数	14,937	人	26.8
転入超過数	日本人 ▲193	人	▲2,464人(※)
	外国人 608	人	943人(※)
面 積	607	km <sup>2</sup>	9.5
総生産	3.71	兆円	38.6
1人当たり所得	3.74	百万円	3.43百万円(※)
製造品出荷額等	3.27	兆円	33.1
農業産出額	4,053	千万円	13.8
観光客入込数	22,386	千人	24.9

※県全体の数値を示す

【将来推計人口】



資料：栃木県総合政策部推計(2024年)

## ■現状と課題

### 【人口関係】

- 令和6(2024)年の総人口は約64万人であり、県人口の約34%を占めています。  
少子高齢化の進行により、令和42(2060)年には、約51万人にまで減少すると推計しています。
- 令和6(2024)年の人口の移動状況は、415人の転入超過ではありますが、日本人のみでは193人の転出超過となっており、20歳代前半の女性、10歳代後半の男性の転出が多くなっています。一方、外国人では608人の転入超過となっています。
- 若い世代の転出超過を改善するため、特に転出超過が顕著な女性に魅力ある雇用の創出や、働きやすい環境づくりを進める必要があります。また、災害が少ない等の住みやすい環境をPRし、子育て世代等の移住・定住を促進する必要があります。

### 【市町連携による広域交通】

- 人口減少や少子超高齢化が進行する状況においても、日常生活の移動手段を確保するため、広域交通ネットワークの維持・充実やそのためのデマンド交通の活用、乗り継ぎ・乗り換え環境の整備、地域内の輸送資源の効率的・効果的な活用など、公共交通サービスの確保とともに利便性向上に取り組む必要があります。

### 【子育て支援】

- 現状、県と市町が連携して様々な子育て支援施策を展開していますが、地域の実情を踏まえ、こどもの居場所づくりや、子育て関連施設の相互利用など、広域連携により子育て世帯に対する支援の充実を図る必要があります。また、本地域は、大学病院をはじめとした医療機関が充実している地域であり、この特性を活かした少子化対策を検討していくことが重要です。



凡 例	
高速自動車国道 自動車専用道路	
IC	
一般国道	
JR (新幹線・在来線)	
その他の鉄道	



大谷資料館(宇都宮市)



グリムの森(下野市)



吉澤章折り紙記念室(上三川町)



おもちゃ博物館(壬生町)

## (2) 栃木・小山・両毛地区

足利市、栃木市、佐野市、小山市、野木町

## ■地区の特性

## 【地理・自然】

- 栃木・小山・両毛地区は、県土の南西部に位置し、4市1町で構成されています。
- 渡良瀬川・思川・巴波川などの河川が流れ、肥沃な沖積平野を形成しています。
- 国道4号及び東北自動車道が南北に通り、国道50号及び北関東自動車道が東西を横断しています。
- 南北に東北新幹線及びJR東北本線、東西にはJR両毛線があるほか、東武鉄道が乗り入れており、首都圏や近県へのアクセスが良好です。

## 【観光・文化】

- スポーツやレクリエーションの場として親しまれ、水と緑に恵まれた渡良瀬遊水地(栃木市、小山市、野木町)はラムサール条約湿地に登録されています。
- 黒塗りの重厚な見世蔵や白壁の土蔵群などが残る蔵の街(栃木市)や日本で最も古い学校として知られる足利学校や足利氏ゆかりの寺社などの文化財(足利市)、明治から昭和にかけて多くの赤煉瓦を生産し、日本の近代化に貢献した野木町煉瓦窯(野木町)など歴史的な町並みや名所があります。
- ユネスコ無形文化遺産に登録された結城紬(小山市)や千年以上の歴史を持つといわれる天明鋳物(佐野市)などの伝統工芸品があります。

## 【産業】

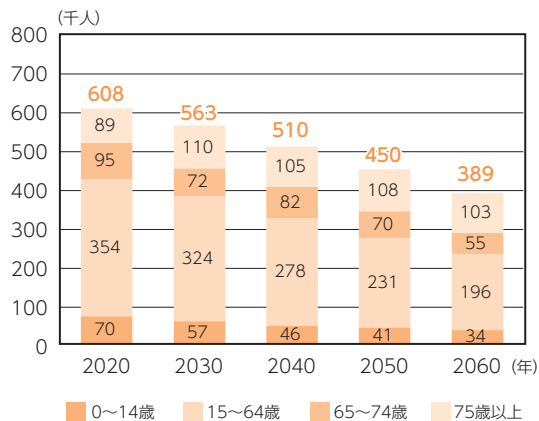
- 産業構造は、第3次産業の占める割合が高くなっています。第3次産業のうち、事業所数及び従業者数とも「卸売業、小売業」が最も多くなっています。
- 製造業では、製造品出荷額等が最も多い地域であり、県全体の約34%を占めており、「輸送用機械器具製造業」などが多くなっています。
- 農業産出額では、野菜や米のほか、肉用牛などの産出額が多く、県全体の約14%を占めています。
- 観光客入込数は、県全体の約24%を占めており、佐野市、栃木市などで多くなっています。

【基本データ】

項目	数 値	単 位	県全体に占める割合(%)
人 口	598	千人	31.4
外国人住民数	24,509	人	44.0
転入超過数	日本人 ▲ 199	人	▲ 2,464人(※)
	外国人 40	人	943人(※)
面 積	1,067	km <sup>2</sup>	16.7
総生産	2.78	兆円	28.9
1人当たり所得	3.29	百万円	3.43百万円(※)
製造品出荷額等	3.36	兆円	34.0
農業産出額	4,068	千万円	13.9
観光客入込数	21,432	千人	23.8

※県全体の数値を示す

【将来推計人口】



資料：栃木県総合政策部推計(2024年)

## ■現状と課題

### 【人口関係】

- 令和6(2024)年の総人口は約60万人であり、県人口の約31%を占めています。
- 少子高齢化の進行により、令和42(2060)年には約39万人にまで減少すると推計しています。
- 令和6(2024)年の人口の移動状況は、159人の転出超過であり、特に日本人のみでは199人の転出超過となっており、20歳代前半の女性及び男性の転出が多くなっています。一方、外国人では40人の転入超過となっています。
- この地域の外国人は約2万5千人であり、県全体の約44%を占め、最も多くなっています。

### 【結婚支援】

- 婚姻件数が減少傾向にあることから、結婚に対する多様な価値観に配慮しつつ、結婚の気運醸成を図るほか、結婚を希望する方への出会いの場の提供を促進する必要があります。
- また、他県の市町と多く隣接している本地域において、婚姻後の居住地として本県を選んでもらえるよう、県と本地域の市町が連携して、施策の充実や情報発信を実施していく必要があります。

### 【移住・定住促進】

- 移住・定住の促進に向けては、本地域の強みである東京圏への良好なアクセスなどを踏まえたプロモーションが有効であり、県と本地域の市町が連携して地域の魅力を発信していく必要があります。



足利学校(足利市)



蔵の街(栃木市)



野木町煉瓦窯(野木町)



渡良瀬遊水地(小山市ほか)



天明鋳物(佐野市)

## (3) 鹿沼・日光・塩谷地区

鹿沼市、日光市、矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町

## ■地区の特性

## 【地理・自然】

- 鹿沼・日光・塩谷地区は、県土の北西部に位置し、4市2町で構成されています。
- 地区面積の約7割が森林であり、西側に日光白根山や男体山など豊かな自然環境を形成しています。
- 中禅寺湖を源流とした大谷川が西から流れ、合流した鬼怒川が南流しています。また、名水百選に選定された「尚仁沢湧水」を始めとする高原山中の湧水が荒川に注がれています。
- 国道4号及び東北自動車道が南北に通る、国道119号、国道293号及び国道461号などが横断しています。
- 南北に東北新幹線及びJR東北本線があるほか、東武日光線、JR日光線及びJR烏山線などが走っています。

## 【観光・文化】

- 釘や金具を一切使わずに木片を組み合わせ幾何学模様をつくる鹿沼組子(鹿沼市)、「ひっかき」と呼ばれる道具から生まれる曲線が特徴的な日光彫(日光市)などの伝統工芸品があります。
- ユネスコ無形文化遺産にも登録されている絢爛豪華な彫刻屋台が繰り出す「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」(鹿沼市)、世界遺産「日光の社寺」(日光市)、鬼怒川左岸にそびえ立つ佐貫石仏(塩谷町)などの歴史・文化があります。
- おしらじの滝(矢板市)やツツジが群生する八方ヶ原(矢板市)、約1.5kmにわたって桜が咲き誇る氏家ゆうゆうパーク(さくら市)、広大なコスモス畑がある鬼怒グリーンパーク(高根沢町)などの観光資源があります。

## 【産業】

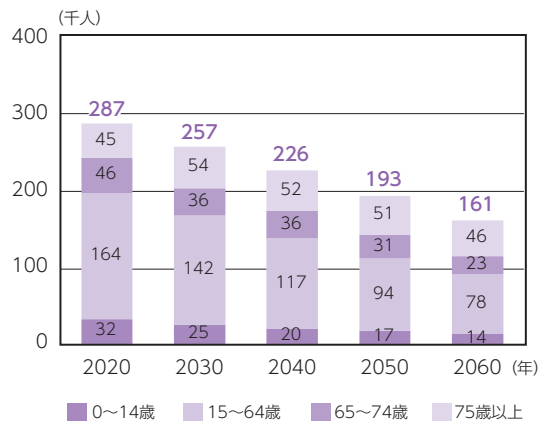
- 産業構造は、第3次産業の占める割合が高くなっています。第3次産業のうち、事業所数及び従業者数とも「卸売業、小売業」が最も多くなっています。
- 製造業では、「食料品製造業」をはじめ製造品出荷額等は、県全体の約12%を占めています。
- この地区は、にら、いちごなどの野菜の主要産地を有しているほか、米や鶏卵などの農業産出額も多く、県全体の約17%を占めています。
- 観光客入込数は、県全体の約21%を占めており、特に日光市が約1,020万人と最も多くなっています。

【基本データ】

項 目	数 値	単 位	県全体に占める割合(%)
人 口	281	千人	14.7
外国人住民数	5,592	人	10.0
転入 超過数	日本人 ▲769	人	▲2,464人(※)
	外国人 328	人	943人(※)
面 積	2,483	km <sup>2</sup>	38.8
総生産	1.24	兆円	12.9
1人当たり所得	3.28	百万円	3.43百万円(※)
製造品出荷額等	1.13	兆円	11.5
農業産出額	4,905	千万円	16.7
観光客入込数	19,296	千人	21.4

※県全体の数値を示す

【将来推計人口】



資料：栃木県総合政策部推計(2024年)

## ■現状と課題

### 【人口関係】

- 令和6(2024)年の総人口は約28万人であり、県人口の約15%を占めています。  
少子高齢化の進行により、令和42(2060)年には、約16万人にまで減少すると推計しています。
- 令和6(2024)年の人口の移動状況は、441人の転出超過であり、特に日本人のみでは769人の転出超過となっており、20歳代の女性及び10歳代後半の男性の転出が多くなっています。一方、外国人では328人の転入超過となっています。
- 将来的な転入増加に結び付けるため、若者が進学などで転出して市町外に在住していても、その市町の出身者へリアルタイムに、ふるさとの情報を届けられる仕組みをつくるなどにより、今後、Uターンを考えてもらえるような契機を増やす必要があります。

### 【周遊観光】

- 日光や鬼怒川などの特定地域には観光客が訪れていますが、周遊観光を促進するためには、物語性やテーマを持たせながら観光地間をつないでいく必要があります。また、周遊観光に必要な二次交通を確保していくことも重要です。

### 【公共施設】

- 施設の老朽化などにより維持管理や更新に多大なコストがかかる中、限られた資源を有効に活用するためには、施設の相互利用・共同設置などの取組の必要性も高まることから、地域内で連携して取り組んでいくことが重要です。



鹿沼今宮神社祭の屋台行事(鹿沼市)



日光山輪王寺 大猷院(日光市)



おしらじの滝(矢板市)



鬼怒グリーンパーク(高根沢町)



佐貫石仏(塩谷町)



氏家ゆうゆうパーク(さくら市)

## (4) 芳賀地区

真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町

## ■地区の特性

## 【地理・自然】

- 芳賀地区は、県土の南東部に位置し、1市4町で構成されています。
- 東側が八溝山系に属するほかは、平坦な土地が広がっています。
- 西側から鬼怒川、五行川、小貝川、那珂川が南流しています。
- 南西には北関東自動車道が通り、東西を横断する国道123号のほか、国道294号が縦貫しています。
- 真岡鐵道が茂木～下館間を走り、令和5(2023)年に開業した宇都宮芳賀ライトレール線(ライトライン)が宇都宮駅東口～芳賀・高根沢工業団地を走っています。

## 【観光・文化】

- 春と秋には陶器市が開催される益子焼(益子町)や江戸時代に隆盛を極めた真岡木綿(真岡市)などの伝統工芸品があります。
- 4月下旬頃に色鮮やかな芝ざくらが見られる芝ざくら公園(市貝町)などの公園や一万人プール、おふろcaféいちごの湯を有するいがしらリゾート(真岡市)などの観光拠点があります。
- 日帰り温泉の芳賀温泉ロマンの湯(芳賀町)やレーシングコースと安らぎの森を有するモビリティリゾートもてぎ(茂木町)などの観光資源にも恵まれています。

## 【産業】

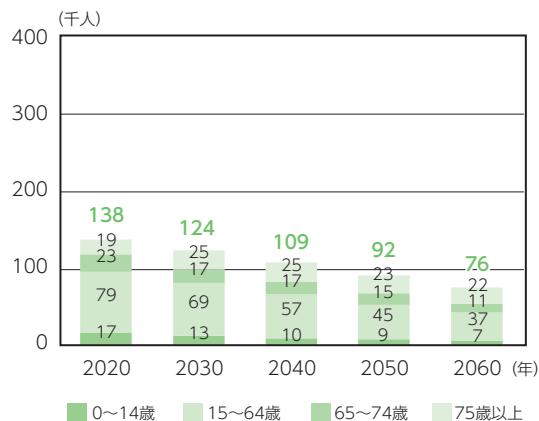
- 産業構造では、第3次産業の占める割合が高くなっています。第3次産業のうち、事業所数は「卸売業、小売業」が最も多く、従業者数は「学術研究、専門・技術サービス業」が最も多くなっています。
- 製造業では、「非鉄金属製造業」をはじめ製造品出荷額等は、県全体の約10%を占めています。
- 農業産出額では、野菜、鶏卵、米の産出額が多くなっており、県全体の約15%を占めています。特に、この地区は「いちご」の主要産地を有しており、県内生産量の約3割を占めています。
- 観光客入込数は、県全体の約9%を占めており、益子町、茂木町、真岡市などで多くなっています。

【基本データ】

項 目	数 値	単 位	県全体に占める割合(%)
人 口	138	千人	7.2
外国人住民数	5,360	人	9.6
転入超過数	日本人 ▲ 663	人	▲ 2,464人(※)
	外国人 ▲ 107	人	943人(※)
面 積	564	km <sup>2</sup>	8.8
総生産	0.66	兆円	6.8
1人当たり所得	3.28	百万円	3.43百万円(※)
製造品出荷額等	0.95	兆円	9.6
農業産出額	4,436	千万円	15.1
観光客入込数	8,470	千人	9.4

※県全体の数値を示す

【将来推計人口】



資料：栃木県総合政策部推計(2024年)

## ■現状と課題

【人口関係】

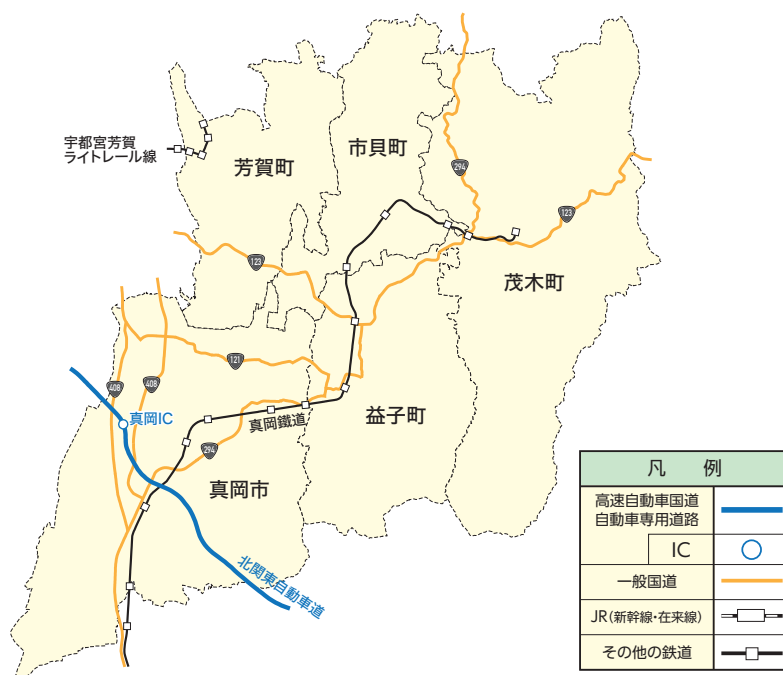
- 令和6(2024)年の総人口は、約14万人であり、県全体の約7%を占めています。  
少子高齢化の進行により、令和42(2060)年には、約8万人にまで減少すると推計しています。
- 令和6(2024)年の人口の移動状況は、770人の転出超過であり、特に日本人のみでは663人の転出超過となっており、20歳代前半の女性及び男性の転出が多くなっています。また、外国人も転出超過となっています。
- 人口減少問題に対応するため、移住・定住の促進や関係人口の創出などの取組が必要となっています。また、若年層の転出を抑制するためには、若者と地域のつながりを増やすことに加え、転出後も接点を持ち続けられる仕組みが必要となっています。

## 【市町連携による広域交通】

- 令和5(2023)年に宇都宮芳賀ライトレール線(ライトライン)が開業したほか、各市町ではデマンドタクシーなどの生活交通を近隣市町とも連携しながら運行しています。今後、人口減少や少子高齢化の進行による利用者の減少など公共交通を取り巻く環境は一層厳しさが増していくことが想定され、地域全体で持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて取り組む必要があります。

【子育て支援】

- 子育ての相談支援等を行う「こども家庭センター」の設置が進んでおり、令和7年度中には地域内のすべての市町で設置となる見込みです。また、病児・病後児保育では、この地区内在住の世帯で利用できる事業が令和7(2025)年度から始まるなど地域内で連携した取組が行われています。一方、産科医や保健師などの担い手の確保が課題となっています。



いがしらリゾート 井頭公園(真岡市)



益子陶器市(益子町)



ライトライン(芳賀町ほか)



芝ざくら公園(市貝町)



モビリティリゾートもてぎ(茂木町)

## (5) 那須・南那須地区

大田原市、那須塩原市、那須烏山市、那須町、那珂川町

## ■地区の特性

## 【地理・自然】

- 那須・南那須地区は、県土の北部に位置し、3市2町で構成されています。
- 那須連山や八溝山地などの山岳地帯が広がり、標高の高い地域も多くあります。
- 那珂川や箒川などの河川が流れ、清流と緑に恵まれた環境が特徴です。
- 東北自動車道が南北に通り、那須高原スマートICや西那須野塩原ICなどがあり、首都圏からのアクセスも良好です。
- JR東北本線やJR烏山線が通り、那須塩原駅は東北新幹線の停車駅として交通の要衝となっています。

## 【観光・文化】

- 那須高原(那須町)は、紅葉の名所である姥ヶ平のほか温泉地やテーマパークなどが集まり、観光地として全国的に知られています。
- 塩原温泉や板室温泉(那須塩原市)、馬頭温泉郷(那珂川町)などの歴史ある温泉地があります。
- 大田原市や那珂川町には古墳群があり、古代の歴史を感じることができます。
- 黒羽城址(大田原市)や烏山城址(那須烏山市)など、戦国時代の史跡も点在しています。
- 那須烏山市の「烏山の山あげ行事」は、野外で歌舞伎を演じる全国的にも珍しい祭りで、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。
- 地元の伝統工芸品としては、烏山手すき和紙(那須烏山市)、黒羽藍染(大田原市)、小砂焼(那珂川町)などが知られています。

## 【産業】

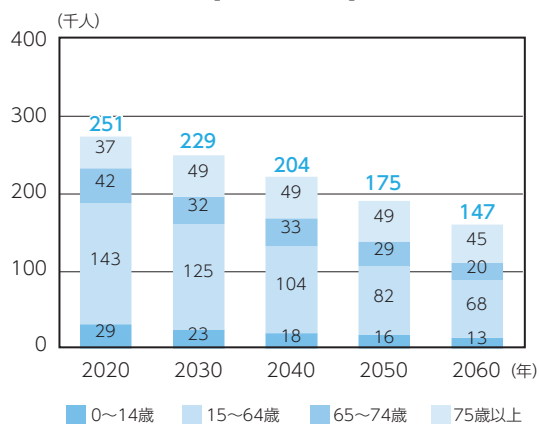
- 産業構造は、第3次産業の占める割合が高くなっています。第3次産業のうち、事業所数及び従業者数とも「卸売業、小売業」が最も多くなっています。
- 製造業では、「電気機械器具製造業」をはじめ製造品出荷額等では、県全体の約12%を占めています。
- 農業産出額が最も多い地域であり、県全体の約40%を占めています。特に、生乳、鶏卵のほか米などの産出額が多くなっています。
- 観光客入込数は、県全体の約20%を占めており、那須塩原市、那須町などで多くなっています。

【基本データ】

項 目	数 値	単 位	県全体に占める割合(%)
人 口	245	千人	12.9
外国人住民数	5,364	人	9.6
転入超過数	日本人 ▲ 640	人	▲ 2,464人(※)
	外国人 74	人	943人(※)
面 積	1,687	km <sup>2</sup>	26.3
総生産	1.22	兆円	12.7
1人当たり所得	3.26	百万円	3.43百万円(※)
製造品出荷額等	1.18	兆円	11.9
農業産出額	11,828	千万円	40.4
観光客入込数	18,389	千人	20.4

※県全体の数値を示す

【将来推計人口】



資料：栃木県総合政策部推計(2024年)

## ■現状と課題

### 【人口関係】

- 令和6(2024)年の総人口は、約25万人で、県全体の約13%を占めています。  
少子高齢化の進行により、令和42(2060)年には約15万人にまで減少すると推計しています。
- 令和6(2024)年の人口の移動状況は、566人の転出超過であり、特に日本人のみでは640人の転出超過となっており、20歳代の男女の転出が多くなっています。一方、外国人では74人の転入超過となっています。
- 那須塩原駅を拠点に、首都圏からの移住・定住促進に向けて、地域の魅力発信、生活環境の整備、子育て支援など市町連携による広域的なプロモーションが重要です。
- 那須塩原市を中心市として、大田原市、那須町、那珂川町の2市2町により定住自立圏域を形成し、「第3次那須地域定住自立圏共生ビジョン」(令和7年度～令和11年度)により「他地域との差別化を通じた交流人口・定住人口の増加」を重点テーマに、生活機能の強化・結びつきやネットワークの強化・圏域マネジメント能力の強化に向けて具体的な取組を推進しています。

### 【防災対策】

- 近年の災害の頻発・激甚化を踏まえ、災害用物資の確保・保管に関し、県・市町が広域的に補完し合うことに加え、民間物流事業者との連携も含めた体制構築の検討が必要です。

### 【周遊観光】

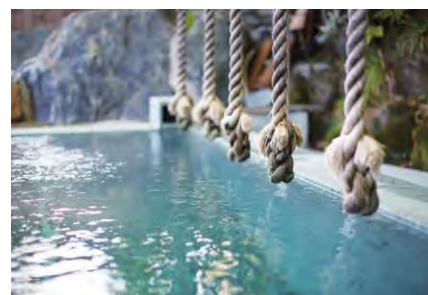
- 地域内に点在する魅力的な観光資源を効果的に結びつける周遊観光の仕組みづくりを行い、滞在時間の延長による宿泊や観光消費額の増加につなげていくことが重要です。



凡 例	
高速自動車国道 自動車専用道路	
IC	
一般国道	
JR(新幹線・在来線)	
その他の鉄道	



黒羽城跡公園(大田原市)



板室温泉 網の湯(那須塩原市)



小砂焼(那珂川町)



姥ヶ平(那須町)



烏山の山あげ行事(那須烏山市)

## 3 課題への対応

今後、各地区が抱える諸課題について、ブロック別市町村長会議の場などを通じて議論を進めていきます。また、「2 各地域の特性」において挙げた現状と課題のうち「市町連携による広域交通」や「子育て支援」、「移住、定住促進」などは、地区を越えた共通の課題であることから、全県的な視点を持って議論を進めていきます。

### 参考

#### ○「各地域の特性」に掲載しているグラフ、データについて

- ・ 割合を表示しているものは小数第一位で四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。
- ・ 転入超過数の▲は転出超過を表しています。

#### ○出典について

地区の特性ページにある基本データ及び将来推計人口の出典は以下のとおりです。

		出 典
基本 データ	人 口	「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和7年1月1日現在)」(総務省)
	外国人住民数	同 上
	転入超過数	「住民基本台帳人口移動報告(令和6年)」(総務省)
	面 積	「県内25市町の人口、面積(令和6年10月1日現在)」(栃木県)
	総生産	「令和4(2022)年度とちぎの市町村民経済計算」(栃木県)
	1人当たり所得	同 上
	製造品出荷額等	「2024年経済構造実態調査(製造業事業所調査)」(経済産業省)
	農業産出額	「令和5年市町村別農業産出額(推計)」(農林水産省)
	観光客入込数	「令和6(2024)年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」(栃木県)
将来推計人口		令和2(2020)年は国勢調査(総務省)、令和12(2030)年以降は栃木県推計